

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)	3. 科目番号	SCMP1160 SSMP1160 SCMP1160 SSMP1160 SBMP2304 GEBS1102 SSMP1160 SSMP1160 SCMP1160 SBMP2304
2. 授業担当教員	北爪 克洋 / 小金澤 嘉 / 田中 良幸 / 橋本 好広		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期／秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 演習Ⅰは「ソーシャルワークの基礎」という位置づけとなり、個人、集団、地域といった、いわゆるソーシャルワーカーが支援の対象とするクライアントシステムについて基礎的な理解を図るとともに、働きかけの方法としての基本的なコミュニケーション、システムの特徴について学習する。		
8. 学習目標	ソーシャルワーク演習Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) 自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。 2) コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。 3) 基本的な面接技術について説明ができる。 4) ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。 5) ソーシャルワーク実践に必要な記録についてその特性を説明することができる。 6) 集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。 7) 地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	課題1. 第2回～第6回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。 課題2. 第7回～第9回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。 課題3. 第10回～第14回の演習内容を踏まえて、地域調査報告についての考察をまとめなさい。 各課題について、A4用紙2枚にまとめなさい。また、提出については、原則としてそれぞれの課題が提示されている次の回にて担当教員に提出すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房、2020.2 【参考書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通+社会専門）』中央法規出版、2020.12 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通）』中央法規出版、2020.12		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 ・7つの目標について理解し、説明することができたか。（知識・理解） ・7つの目標について思考し、考察を深めることができたか。（思考・判断・実践） ・7つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。（関心・意欲・態度） ○評定の方法 1. 演習への取り組み 40% 2. レポート（課題1～3） 60% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。		

	教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言、発表等）できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション オープニング（契約） ：学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認	事前学習	シラバスを確認し、ソーシャルワーク演習Ⅰの学習内容について確認する。
		事後学習	演習を実施するうえでの個人の役割についてまとめる。
第2回	自己覚知（個人） ：専門職である自己の価値観・思考傾向について理解を促進する	事前学習	自分自身の価値観、思考傾向、ストレングスやウィークポイントについてまとめる。
		事後学習	演習内容を踏まえて、専門職を目指す自己についてまとめる。
第3回	個人へのコミュニケーション ：基本的コミュニケーションの理解とトータル・コミュニケーションの実践	事前学習	基本的コミュニケーション技法についてまとめる。
		事後学習	演習内容を踏まえて自身のコミュニケーションスキルについてまとめる。
第4回	面接技法 ：言語・準言語・非言語の意義と効果について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2. 概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における専門的なコミュニケーションの方法についてまとめる。
第5回	ソーシャルワーク・プロセス ：ソーシャルワークの展開過程について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2. 概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえてソーシャルワーク・プロセスについてまとめる。
第6回	記録 ：客観的記述と主観的記述について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2. 概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題1の作成
第7回	集団（グループ）の理解 ：集団の定義、機能、構成について理解する	事前学習	これまでの自身の生活を振り返り、集団のメリットとデメリットについて自らの考えをまとめる。
		事後学習	演習を踏まえて集団（グループ）の定義と機能についてまとめる。
第8回	グループダイナミクス ：相互作用システムとリーダーシップ理論について理解する	事前学習	グループダイナミクスについてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえてグループダイナミクスについてまとめる。
第9回	グループワークのプロセス ：グループの展開過程について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2. 概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題2の作成
第10回	自己覚知（地域） ：自身の生活と地域社会とのつながりについて理解する	事前学習	これまでの自身の生活を振り返り、地域社会とのつながりについて想起する。
		事後学習	「コミュニティ」の特徴についてまとめる。
第11回	地域の理解 ：コミュニティの定義、概念について理解する	事前学習	「コミュニティ」の定義・概念について内容を確認し、不明な点を明確化する。
		事後学習	「ソーシャル・キャピタル」について、その内容をまとめる。
第12回	地域調査(1) ：コミュニティ要素モデルに基づく特定の地域の調査方法について理解するとともに調査を実践する	事前学習	調査に必要な資料を収集する。
		事後学習	調査内容についてまとめる。
第13回	地域調査(2) ：第12回にて調査した内容をまとめるとともに、プレゼンテーションの準備を行う	事前学習	調査に必要な資料を収集する。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について振り返り、プレゼンテーションの準備を行う。
第14回	地域調査報告 ：プレゼンテーションの実施	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。また、他のグループのプレゼンテーション資料に目を通しておく。
		事後学習	課題3の作成
第15回	まとめ ：自己評価の言語化と課題の明確化	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで使用したテキストの該当箇所を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで学習できたことをまとめるとともに、ソーシャルワーク演習Ⅱの実施に向けた自己課題を明確化する。